

第12回 九州電力環境顧問会

2012年11月22日に「第12回 九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。

環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。



九州電力環境顧問会委員（50音順、敬称略）	
浅野 直人	福岡大学 法学部 教授、中央環境審議会委員
大塚 政雄	環境省 環境カウンセラー（市民部門）
門 久義	鹿児島大学 副学長、鹿児島大学大学院 理工学研究科 教授
筒井 泰彦	エッセイスト
鶴田 暁	九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ 会長
詠田 トキ子	NPO法人 みやざきエコの会 理事長
西田 進一	西田鉄工株式会社 代表取締役社長
野村 美紀生	株式会社テレビ西日本 専務取締役
藤本 登	長崎大学 教育学部 教授

（注）門委員、藤本委員は都合によりご欠席されたため、別途ご意見をいただきました。

● ご意見の概要と対応方針

ご意見の概要	対応方針
<p>【原子力の安全対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絶対に安全な機械・装置は無く、致命的な事故を如何に防ぐかが重要であり、原子力に対してもこの考え方で対応すべきではないか。 国益や地球温暖化対策等の総合的な観点からも、原子力の安全確保を着実に進めていって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所の安全上重要な機器についても、故障することを考慮し、複数台設置するなど幾重もの安全対策を取ることが国の指針で定められています。原子力発電所の建設等の際には、この指針に基づいた適切な対応を行い、安全が確保されていることを国が安全審査において確認することになっています。また、想定外の地震や津波に対しても燃料が損傷しないように、緊急安全対策を実施するとともに、更なる安全性・信頼性向上に向けた自主的かつ継続的な取組みを進めているところです。 原子力発電は、安全の確保を大前提として、エネルギーセキュリティや地球温暖化対策の面から今後も重要な電源であることには変わりはないものと考えており、「福島のような事故は絶対に起こさない」という固い決意のもと、安全対策を実施しています。原子力の安全対策の実施状況や必要性・重要性については、環境アクションレポート等において、引き続き丁寧かつわかりやすい説明に努めていきます。

（2枚目につづく）

<p>【自然放射線に対する理解促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般の人の多くは、放射線が原子力発電所からしか発生しないと誤解している恐れがあるため、自然界に存在している放射線に対する理解促進を図るべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然放射線について、環境アクションレポートの「放射線管理」(2012 レポート 18 ページ)では、日常生活と放射線の量との関係を示した模式図中のみでの記載ですが、その他にも、原子力に関するご説明を行う際に、併せて放射線に関するパンフレット等を用いた説明を行うなど、自然放射線に対する正しい知識の理解促進を図っているところです。 今回のご指摘を踏まえ、お客さまへのよりわかりやすい説明に努めるとともに、ホームページでの情報提供のほか、環境アクションレポートの記載内容の充実等を図っていきます。
<p>【環境負荷増大に対する説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原子力利用率が大きく低下する中、CO₂排出原単位の悪化は、もはや電力会社の努力だけではカバーできない状況。その背景や状況等についてはレポート等を通じて積極的に説明し、環境負荷が増大していることに対する社会の認識を高めていくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原子力発電所の運転再開延期により、火力発電量が大幅に増加した結果、CO₂だけでなく、SO_x・NO_xなどの環境負荷も増大している事実について、引き続き、環境アクションレポート等を通じて報告をしていきます。併せて、原子力の必要性・重要性についても丁寧かつわかりやすい説明に努めていきます。
<p>【再生可能エネルギーに関する説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 風力・太陽光については、設備容量(kW)ではなく利用率(kWh)での評価が必要であり、それらの課題についてもきちんと説明していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 風力・太陽光の導入にあたっての課題については、環境アクションレポート(2012 レポート 21 ページ)においても記載しています。今後も、再生可能エネルギーの特性等についてより深くご理解いただくため、引き続き環境アクションレポート等で説明していきます。
<p>【省エネ・省資源活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 九州電力のオフィスでの電力使用量の削減実績については、消費者や他企業の参考となり得るので、具体的な取組内容を積極的に紹介すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当社自身の節電への取組内容や実績について、お問合せをいただいたお客さまには、適宜ご説明を行っていますが、当社が節電に取り組むことは当然であることから、積極的な紹介は控えています。 なお、ご家庭等で取り組める節電・節約手法については、ホームページ等を通じてご紹介しています。
<p>【生物多様性への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境アクションレポートにおける生物多様性に関する記載が不十分。九州電力が生物多様性保全のために地域社会と協働で取り組めることは多いと思うので、今後もより充実した取組みを期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、生物多様性に対しては、当社の事業活動全般を通じて取り組んでいるところですが、今後もより充実した取組みを検討していくとともに、その状況についても、環境アクションレポート等を通じた、わかりやすい説明に努めていきます。
<p>【環境アクションレポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境アクションレポートには、読者に知ってもらいたことを分かりやすく伝える工夫が必要。その上では、読者が何を知りたいのかを分析する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回(2012)の環境アクションレポートでは、読者アンケートにおいて質問を新設し、「新たに記載すべき内容」や「不要と思われる内容」についてお聴きしています。次回の環境アクションレポート等には、これらのご意見を適切に反映していきます。
<p>【環境活動方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境活動方針(2012 レポート 8 ページ)について、「社会との協調」と「地域環境の保全」を、地域への対応関連として一つにまとめ、これに再生可能エネルギーや節電への取組み等を含めてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境活動方針において、「社会との協調」は、主に地域の皆さまとの協働による環境活動を、「地域環境の保全」は当社設備における環境調和・保全対策等を対象としてそれぞれ整理しており、再生可能エネルギーや節電への取組みは低炭素社会に向けた取組みとして「地球環境問題への取組み」に含めているところです。 今後、当社の取組方針をより明確にお伝えできるよう、環境アクションレポート等での説明の充実にも努めていきます。